



War Cry

3月号

福音版  
2025  
March  
No.2884

二〇二五年 三月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

# GOOD NEWS とぎのこえ

## 起きなさい

石川 和男



三月は桃の節句、女の子のお祭りですね。「明かりを点けましょぼんぼりに……今日は楽しいひな祭り」――どこからかあの歌が聞こえてきます。娘たちが健やかに、幸せに暮らしているように、親たちは心を込めてひな人形を飾り、料理を用意し、忙しい中にも楽しい時を過ごすのでしょう。しかし、そんな期待や祈りのようにいかない時もあります。わが子が難病を抱えているとわかったり、思いもかけず行方不明になってしまったり、それでも親はその子のために祈ります。この子が幸せでありますように、と。

聖書にもそんな両親が登場します。ヤイロとその妻です。ヤイロはユダヤ教の会堂長でした。ユダヤ教礼拝所の責任者であり、人々から最も尊敬を受けていた人物でした。そのヤイロと妻は、自分たちの娘を看取るうとしていたのです。親にとつてこんなに不幸なことがあるでしょうか。娘を救おうと躍起になったヤイロは、今評判の旅の説教師「イエス」という男の噂を耳にします。噂によると、「イエス」は人々の病気を癒し、悪霊を追い出し、嵐を静め

たそうな。そんなすごい先生がいるのなら、ぜひうちの娘のところに来てもらいたい。彼は一念発起してこの「イエス」のもとへ駆けつけます。イエスを見つけるとヤイロはなりふり構わず彼の前にひれ伏して、「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう」と叫びました（マルコによる福音書5章23節）。

イエスはこの切羽詰まった父親を見て同情されたのでしよう。すぐヤイロと一緒に彼の家へ向かわれたのでした。しかし、一行がヤイロの家に着いた時には、ヤイロの娘は冷たくなって寝床に寝かされていました。けれどイエスは動じず、三人の弟子と両親と共に子どもがいる所へ入り、少女の手を取って「タリタ クム（娘よ、起きなさい）」と言われました。すると少女は起き上がり、歩き出したのでした。人々は我を忘れるほど驚いた、と聖書は伝えています。

「起きなさい。」死から生へ。イエスは私たちを死から生へ導かれるお方です。死んだような現代人の生活

に真の命を吹き込まれます。毎日同じことをして、何のために生きているのかわからなくなった、と嘆いたことはないでしょうか。この世は私たちに効率と競争を求めてきます。私たちはともするとこの中で自分自身を見失い、生きる意味を見失ってしまいます。しかしイエスはそんな私たちに「起きなさい」と声をかけてくださいます。立ち上がれなさい、そして私の命に來なさい。そうすればあなたたちに命、本当の生きる意味が与えられる。イエスの言葉はそれほどもでに力をもっているのです。

イエスはまた、このような言葉をわたしたちに語りかけています。  
「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに來なさい。休ませてもらおう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」（マタイによる福音書11章28～30節）

あなたもイエスの命の中に來ませんか。  
(救世軍士官(伝道者))

# 日々、身に余る恵み 感じて



関根 義行さん  
(救世軍天満小隊所属)

大阪の天満小隊(教会にあたる)に属する関根さん。曹長(信徒リーダー)として、小隊に集う方々に心を配り、共に祈り、また、世界の救世軍の働きにも目を向けておられます。その信仰の歩みについてお聞きしました。

## 生い立ち

私は大阪に生まれ、幼い頃から、両親と一緒に救世軍鶴橋小隊に通っていました。バスに乗ってだいぶ遠くから小隊に通っていたのを覚えています。日曜学校に出席し、子どもなりに、聖書の言葉を理解しようと、励んでいました。両親は小隊の下士官(役員)でした。父は医療系の道へ進み、母

は若い頃は教師を目指すほどの人でした。当然、長男の私への期待は大きく、それが外れると、その落胆はすごいものでした。私は勉強が苦手で落ちこぼれていたので、身の置き所がない思いになったものです。

私とラッパの関わりを話します。ある時、小隊士官(牧師にあたる)が、指一本で吹ける簡単な曲があると教えてくれました。一週間後、彼が私を恵の座(小隊会館に

ある祈りの場)に出るよう導いたのです。「祈ります。神様、関根君がこの後、野戦路傍(伝道)にラッパで参加してください。どうか守ってください。アーメン。」プレッシャーを感じながら、たった一曲をひっさげて、最初から最後まで吹き通しました。「主の十字架のもとにひれふして願えば……」という有名な賛美歌です。大人に混じって必死でした。

当時は毎週違う場所での野戦で、妨害されることもあり、太鼓の皮が傷つけられたりしたこともありました。小隊士官に報告する

と、「ハレルヤです！ 祈りましょう！」笑顔と激励が返ってきたのです。思わず、心の中で文句を言っていました。〈神様が喜んでくださるとがんばっているのに、どうしてですか!!〉 十二、三歳の頃で無理もありません。

こういうラッパとの出会いでしたので、その後も楽しくというより、とにかく大人の人たちと一緒にがんばって吹かないと、と、がむしゃらにやっていた感じでした。いい演奏をした時にほめてもらったり、練習したとりに吹けたというのでうれしい気持ちになることはありましたが、長年やってこれたことが不思議に思うほどです。

## 見えない大きな力によって

初めて野戦でラッパを吹いて以来、半世紀、救世軍にとどまって人生を過ごしてきました。見えない大きな力があったとしか言いようがありません。でもいまだに、主よあなたは私に何を問われているのですか、と問いかけています。イエス

様の槍傷(やぶら)に触れて初めて信じたトマスより、へそまがりですね。

学校卒業後、大阪で自動車会社に勤め、トラック、バスの整備の仕事をしました。その後、静岡に移った時期に、救世軍から離れかけたことがありました。そんなある日、友達と一緒にドライブしている時に、商店街で当時の静岡小隊士官の方が一人野戦をしている姿を見かけたのです。急いでそこを通過しましたが、内心、申し訳ないという思いがあり、自分は今何をするべきなのかともう一度考えさせられ、救世軍に戻ったという経験があります。

天満小隊に属するようになったのは家内と結婚してからです。家族ができて、自分の弱さを補ってくれる人がいる、という恵みを得ました。息子が二人いますが、信仰については、親の生活を見せることで子どもを導くことができたらと思うので、無理に引張っていくことはしなかったつもりです。ただ家内が思慮深く、子どもたちが成長する中でも、信仰を導いてきてくれたことを感謝しています。今、息

子たちがクリスチャンホームを築き、救世軍に連なっていることは感謝です。孫たちも、イエス・キリストというすばらしい方がちゃんと見守っていてくださるということ、各自がいつか気づいてくれるのを期待しています。

## イエス様の気配

だいぶ前ですが、大阪城ホールでフランクリン・グラーハムという伝道者の大会がありました。その頃には介護福祉士として働いていたため、大会では障がい者の方のお世話をするという役目を受けました。私はホールの中で直にお恵みを受けることを期待していたのですが、「関根さんはホールの外で、車いすの方を誘導してください」と。落胆した思いで、一人で大阪城ホールのスロープの下で待っていました。少しすると、一人の人が車いすの方をずーっと送って来られて、そこでバトンタッチして、私が会場の中にお連れしたんです。その時に、私の手元まで車いすを押してくれてくれた方の姿から、戸の外に立っているキリストの絵

\* ヨハネによる福音書20章24～29節、弟子のトマスはイエスの十字架の傷跡を自分の目で見ると復活を信じない、と言い張ったエピソードを参照



① 2022年、世界の救世軍の指導者ブライアン・ペデル大將夫妻来日の際に、妻と筆者  
② 2023年、天満小隊召天者合同記念聖別会（後列左から4人目）  
③ 2011年、ロンドンで救世軍プラスバンドの記念集会有った時の、世界の救世軍人のコラージュ（中央に筆者）

が思い浮かびました。そして、「あ、自分さえ良かったらいいというのじゃないのだ」と思ったのです。イエス様が車いすを押して来てくださったって、「あなたには、いつもわたしがいるじゃないか。この人のためにあなたの能力を献げなさい」と私に語っておられるという、気配を感じる事ができたんです。私は、なんで自分だけ外で一人きりなんだと思っていたけれど、そうじゃない、イエス様は私にこのことを気づかせようとしておられたんだとわかり、悔い改めました。すでに小隊に来て長かったん

### 小隊での恵み、世界に広がる祈り

です、それは強いインパクトのある経験でした。今、私は毎週の礼拝で聖書の言葉をワクワクして受け止める事ができています。御言葉による主からの声かけに感謝しています。最近、

「それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分か、かえって必要なのです」（コリントの信徒への手紙一 12章22節）の御言葉が心に留まっています。キリストの体の一部

として、世界中の人たちが助け合うことが必要と思わされています。

天満小隊は今、外国の方々が礼拝に参加されています。すばらしいことです。世界に広がるイエス・キリストのメッセージを実感しています。小隊の中で複数の言語が飛び交うなんて、ハレルヤです。

確か二〇〇七年に、岡山のある病院に、海外から二人の方が資格取得のために研修に来ていることがテレビ放映されました。それを見て私は、この方たちに励ましの気持ちで、お祈りしています、と手紙を出したんです。異国で、少しでも気持ちの慰めになればと思っ

て送りました。その後どんな、日本も外国の方の働きが必要になってくる中で、小隊が、そういう方の心のオアシスになればいいなと思っていました。それが今、シリアや韓国やフィリピンや台湾の方々が小隊に集われている事実を見させていたでいて、神様の一つの計らいと思っています。また『ときのこえ』の裏面に出ている海外のトピックスを読んで、災害や病気の

蔓延などで困っている方々のために奉仕している現地の救世軍へ、励ましのお便りを出しています。最近では、ハワイの Maui 島の大火事の時、お見舞いの手紙を出しました。先日、ハワイから返信のカードが届きました。また、今年一月のロサンゼルスでの山火事の際も、アメリカ西部軍団の救世軍が、焼け出された方々へ支援をしている様子をテレビで見、早速、お見舞いの手紙を出し、日本からお祈りしていますとお伝えしました。

小さなことで、それくらいしかできないのですが、辛い救世軍は世界中に仲間がいますので、その方々のために心を寄せて祈るということを努めています。

小隊では今は、礼拝や野戦でのラップ演奏は次の世代の人に委ねて、私は、礼拝に来られた方々との語りやお祈りを一緒にするといい役割をさせていたでいています。介護の資格があるのを利用

して、高齢の方がお帰りになるのを介助し、一週間その人の生活が守られるようにと祈りながら、手を振って見送りさせていただいています。

私はこれからも、自分の置かれた場所で力を尽くして生きていきたいです。イエス様が懐深く、どんな人をも受け入れたように、救世軍の小隊も、そういう姿勢を整えていけたらと思っています。私自身も、そういうふうになりたいと思っています。

「主の気配さぐる弱き者ながら 日々 身にあまる恵み 感じて」

「明日のことを思い煩ってはならない。明日のことは明日自らが思い煩う。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」（マタイによる福音書 6章34節 聖書協会共同訳）



創立者 ウィリアム・ブース 大將 リンドン・バッキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブ・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈米国〉カリフォルニア州山火事を受けて

今年1月7日以降、南カリフォルニアの複数地域で急速に広がった山火事により、地域社会は壊滅的な被害を受けました。救世軍は直後から対応を開始し、緊急災害支援チームを派遣して、ウッドランドヒルズ、ロサンゼルス、パコイマの避難所で食事や水、衣類の提供とグリーンケアをおこないました。さらに寝具、応急処置、救急医療、メンタルヘルス・サポートも提供しました。救世軍は他の支援団体や連邦、州、地方当局と連携し、可能な限り効率のかつ効果的に対応しました。



南カリフォルニア連隊のバーズ少佐はCNNニュースで次のように述べました。「救世軍はどんな災害の前も、最中も、後も現場にいます。私たちは肉体的、感情的、精神的に人々に奉仕することに尽力しています。人々に寄り添い、この災害を一人で乗り越えるのではないことを伝えたいのです。」

発災から一週間後の1月14日には、アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁(FEMA)により災害復旧センター(DRC)が二カ所に開設され、救世軍はそこで食事を提供しながら避難者の話に耳を傾け、祈り、また高齢の避難者への対応に従事しました。

山火事は28人の命を奪い、18万人が避難を余儀なくされました。焼失地域は1万2000ヘクタール以上に及



んでいます。救世軍士官(伝道者)も避難命令を受けました。そのうちの Pasadena 小隊(教会)のヘルムズ大尉夫妻は、「被害は広範囲に及び、大きな損失を被った人々と共に悲しんでいます。これは私たちが真にキリストの手足となることの意味を体現する時です」と言っています。この火災の影響を受けた人々のために、救世軍は世界中で祈り、また現地でのサポートを続けています。(1月23日現在)

救世軍ホームページから募金にご協力いただけます。→



世界の救世軍の指導者

リンンドン・バッキンガム大將 及び ブロンウィン・バッキンガム中將 来日

11月22日(土) チャリティーコンサート 23日(日) 聖別会、賛美集会

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)



左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます! 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください!

救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まりました。

救世軍では毎年春(3月、4月)に「<sup>こっ</sup>己週間」をおこないます。これは、イエス・キリストの十字架の死に心を向ける受難節の季節におこなわ

れる募金活動で、海外の救世軍の活動を支えるために用いられます。救世軍のメンバーが克己、儉約して献金すると同時に、広く社会の皆様へ協力を仰ぎ募金をお願いしております。今年は、バングラデシュの救世軍が運営する聴覚障がい児のための学校を支援するために用いられます。また、インドネシア、南アフリカを含むいくつかの国の働きを支援します。各地の救世軍ではそこに生きる人々の様々なニーズに応え、生活を豊かにするためのサポートを続けています。世界での救世軍の働きを覚え、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



救世軍公報 ときのこえ
発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日
定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円
(税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブ・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881(代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス
Includes QR code and social media icons for Facebook, X, and YouTube.

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。
【取り扱い支部】
救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。